

コルセイルと冬の王女



おんがく広場177号※に、コロナ禍、埼玉県幸手市の小学校で、対面での芸術鑑賞会を開催したエピソードを紹介して頂いたコルセイルです。2台の電子ピアノと2人のハーモニーの掛け合い、また、それらを生かしたオリジナルの編曲で、2人きりでも、時に交響楽を奏でているような壮大なクラシックから、時に最新のポップスまで、様々なジャンルの音楽をユニークなスタイルでお届けしています。

※https://rkato.sakura.ne.jp/music/ongaku_hiroba_177.pdf

y*s Corsaireは、佳枝yoshieと祥子showkoの義姉妹によるデュオのユニットです。コルセイルとは、16世紀フランスの王家公認の「海賊」、音楽という至福の宝物を求め、自由に冒険心に満ちた独自の活動を続けています。

コルセイルと冬の王女

11月8日(金) 19時開演(18時半開場)

彩の国さいたま芸術劇場小ホール

「コルセイルと冬の王女」
ゲスト 白井京子 フォーアウンサー

I 空の舟へ 音楽海賊コルセイル
Sonatine breisacretique E. Satie
Symphony No. 7, L.V. Beethoven
Messiah Dornes G. Puccini
America / West Side Story
Spand of music - medley -

II -Vol. 1 みすゞノスタルジックをこるせいる
III Invitation of Winter Princess
Yuri on Ice
Show yourself! 「Frozen 2」
Carol of the Bells winter hill
Walking in the air 「The Snowman」
Fantasy Springs ~Tokyo Disneyland~

2024 11/08 (Fri.)
会場 彩の国さいたま芸術劇場小ホール
開場 18:30 開演: 19:00
チケット 全自由席 一般 ¥2500 こども ¥2000

E-mail yscorsairejp@gmail.com
J*s Corsaire HP <https://www.yscorsaire.com>

金子みすゞは「私と小鳥と鈴と」などで知られる童謡詩人です。28才で夭折したにも関わらず、その作品の魅力は時代や国境を超越し、生誕120年の節目を迎えた昨年には15言語目となるジョージア語に翻訳されました。文学の枠組みにとらわれることなく、音楽や絵画、アート作品など様々な分野でも愛され続ける、みすゞの詩と童謡。いまコルセイルは「みすゞ×メルヘン」をキーワードに音楽づくりをしています。世代や文化的背景をこえ、わたしたちを惹きつける普遍的な要素として、みすゞの中にある「メルヘン」をテーマに展開する今回のステージは、みすゞの詩を未来につなぎ、さらに広めていくための新たな扉をひらくかもしれません。

『推薦のことば』 香川みすゞさんの会長長 浮田 民恵さま
コルセイルの二人が響く多彩な音色と透明感のある歌声は、金子みすゞの詩のイメージをさらに広げ、豊かに心癒す(多くの心に届けてくれます。海の下に行ったかと思うと、山と空を走る汽車に乗っていたり、幼い頃のみすゞの姿を見つたり...どこか懐かしいみすゞのファンジの世界に誘われます。

写真提供: 金子みすゞ著作保存会

白井京子 フォーアウンサー 朗読家
小学四年生からNHK広島放送児童劇団に在籍し、OLを経て、高橋圭三プロダクションに所属。TBS天気情報番組、フジテレビ「健康クイズ」「美様クッキング」テレビ朝日「モーニングショー」のハウス食品コマーシャル等、多数の番組に出演。現在は六本木にて「ことばの森」を主催し朗読会を企画、朗読教室を開いている。昨年、足立エルソフィアのステージナビゲーターとしてコルセイルと初共演して以来、二度目の出演。

YouTube「大活躍」
QRコード
コルセイル Official HP <https://www.yscorsaire.com/>

コルセイルの多様な活動のなかでも、童謡詩人・金子みすゞの詩に音楽をつける作品集は、ライフワークとなっています。みすゞ生誕120年メモリアルイヤーである2023年から本年にかけては、みすゞの故郷である仙崎(山口県長門市)を皮切りに、気仙沼、東京、埼玉、高松など各地に招かれ、オリジナル曲を含むユニークなプログラムを引っ提げて、精力的に演奏活動を行いました。童謡・唱歌の枠組みを超え、みすゞの感性や世界観そのものを描く、再現性の高い音楽空間は、彼女が本来もっている明るくユーモラスな素顔や、個々の作品の背景を見つめなおし、若い世代へ繋いでいく稀有な表現として、ますます評価が高まっています。

みすゞ蘇りの最大の功労者であり、金子みすゞ記念館館長も務める、児童文学作家の矢崎節夫氏は、コルセイルとみすゞの関係性について、こんなコメントを寄せてくださいました。

「コルセイルの二人が奏でる、みすゞさんの歌を初めて聴かせていただいた時、なんと自由に、楽しく、その上まっすぐにみすゞさんに向かい合っているのだろう、このようなアプローチで、みすゞさんの世界を深く読み込み、再現した音楽が、これまでにあっただろうか?と感じました」

従来のイメージを鮮やかな色彩で塗り直し、境界を驚かせているコルセイルが、みすゞの童謡詩に見いだした、画期的かつ普遍的なコンセプトは「メルヘン」。大正から昭和初期に活躍しながら、最新の情報や海外の影響も取り入れ、時代の最先端を走っていたみすゞ。クリエイターとして、ひとりの少女として、ユーモアと好奇心に満ちた、瑞々しくも愛くるしい、金子みすゞの新たな魅力が、100年の時を経ていま蘇ります。

特別ゲストに、アウンサーの白井京子さんをお迎えして繰り広げられる、幻想的な冬の始まりの物語の世界へ、ぜひお越しください。

